

植物工場実用化の実際と最新動向



社会開発研究センター 理事
高辻 正基 氏

本日の主なテーマは人工光型植物工場についてですが、最近いろいろ感じることがあります。例えば光の強さや日照時間については誤解があるように思う。最近の節電ヒートに伴って、光強度を弱めて日照時間を短くすれば事業を進めている。2011年に生産事業を行う会社を「野菜流通の構造改革に挑戦」というビジョンを掲げ設立。現在グループで200億円の野菜を取り扱っている。1日500㌧の野菜を取り扱う。植物工場レタス「ベジタス」は栽培日数40日で年9回転、安定的に生産する。

山口 剛 氏

経産省の取り組み
経済産業省は農商工連携によって、経営資源の融合やイノベーションの促進などを図っている。こうした連携はまさに植物工場自体が現れているといつて、経営省としても植物工場の支援を行っている。支援は2008年に成立した農商工連携にもついており、例えば植物工場ではどのように付加価値をつけて売っていくかが重要なトレンドであり、今後技術革新でできる要素も多いのではないか。そのためにはどうのよう付加価値を出すのは可能

井川 義孝 氏

農水省の取り組み
農林水産省は農業政策課活性化企画室によれば、農業部園芸作物課青果物生産流通消費情報分析官として表彰された。同財団によると、同研究会は「テクノロジーを自然に学ぶだけでなく、人と自然の関わりを『パックキヤスト』や『90歳ヒアリング』で深く観察し、自然をさらに科学してその観察(えい)と実践(ビジネス化・政策提案)を行っている」ことを評価したとしている。



海外視野にブランド化支援
ではない



次世代施設園芸へ英知結集
いる。

高収益化へ低コスト工場実証

植物工場の分野で世界で勝ついくには、やはり大型植物工場で勝負しなければと考え、大型にこだわって事業を進めている。2011年に生産事業を行う会社を「野菜流通の構造改革に挑戦」というビジョンを掲げ設立。現在グループで200億円の野菜を取り扱っている。1日500㌧の野菜を取り扱う。植物工場レタス「ベジタス」は栽培日数40日で年9回転、安定的に生産する。

スプレッド 社長
稲田 信二 氏

植物工場の成長戦略
植物工場は、安全性で、いつでも同じ品質と価格の安定性も好評。おいしい野菜を多く生産する。特徴はやはり安全性で、いつでも同じ品質と価格の安定性も好評。おいしい野菜を多く生産する。

植物工場は、安全性で、いつでも同じ品質と価格の安定性も好評。おいしい野菜を多く生産する。特徴はやはり安全性で、いつでも同じ品質と価格の安定性も好評。おいしい野菜を多く生産する。

植物工場は、安全性で、いつでも同じ品質と価格の安定性も好評。おいしい野菜を多く生産する。特徴はやはり安全性で、いつでも同じ品質と価格の安定性も好評。おいしい野菜を多く生産する。

植物工場は、安全性で、いつでも同じ品質と価格の安定性も好評。おいしい野菜を多く生産する。

植物工場は、安全性で、いつでも同じ品質と価格の安定性も好評。おいしい野菜を多く生産する。